

大学の實力 大学 SELECTION

「地域貢献」「国際化」を 推進する 人・物・情報の結節点

金融系に強い経済学部系単科大学として地域を支える人材を数多く輩出してきた下関市立大学。多彩な留学・海外研修プログラムや地域共創センター、系統立ったキャリア教育などを積極的に進め国際化の時代にふさわしい多様性を身に付けた若者を育てる研究教育機関であるとともに、地域行政、企業、住民と歩む知的センターへと発展している。

下関市立大学



「鯨資料室」「ふく資料室」の説明をする濱田英嗣(経済学部教授) 地域共創センター長
■セミクラのヒゲ(写真中央上部)
■捕鯨船の模型(中部) 第二十五利丸(奥)と第一京丸(手前)
■日林兼商店が南氷洋に初めて出漁した際に建造した国産初の捕鯨母船「日新丸」の図面(中央下部の青い図)



学長
川波 洋一氏

教養豊かな 人材を育成する 地域の知的センター

川波洋一学長は大学の特徴として「多様性」を挙げる。三方を海に面した下関市は古くから交通の要衝として国内外の人と物、情報の結節点。そこに地理的、歴史的、文化的多様性が生まれたと考察している。

学生の出身地は、中国・四国地方40%強、九州地方40%弱、関東、関西、

学部・大学院情報

- 学部
 - 経済学部 経済学科
 - 国際商学科
 - 公共マネジメント学科
- 大学院
 - 大学院経済学研究科

北海道など国内他地域15%、留学生2%とバラエティーに富む。人文科学、社会科学、自然科学とバランスのとれた多様なカリキュラムも特徴だ。「様々な考え方がぶつかり合う摩擦の中から、新しいものが生まれる」と川波学長は、多様性の重要性を強調する。

下関市立大学は①教育と研究の一体性に基づく新たな知の創造②東アジアを中心に広く世界に目を向けた教育と研究③地域社会の知的センターとして地域に根ざした教育と研究——を理念として掲げている。そのうえで「バランスのとれた教養豊かな高度職業人の養成」と「地域社会及び国際社会の発展に寄与する人材育成」を目指している。

外国語の スピーチコンテスト等で 異文化に触れる

国際交流では、世界各地の12大学との連携、日本語、英語、朝鮮語、中国語によるスピーチコンテストなど多彩な取り組みを行っており、留学生受け入れにも熱心だ。川波学長は「日本人学生、留学経験者と留学生が交流し異文化との接点を持つことで、それぞれに新しい可能性が開けるのではないか」と期待する。

特徴的な取り組みとして「地域共創センター」がある。地方の大学は地域のシンクタンクとして機能するべきだ、という考えに基づき「地域調査研究部門」

「地域教育活動部門」「アーカイブ部門」で構成され、「鯨資料室」と「ふく資料室」は、世界中の研究者から注目を集めている。

就職率が非常に高い(2016年度99.8%)のも特色の一つ。1年次からのキャリア教育と親身な就職相談で「自分のやりたい仕事を見つけ、満足度の高い」就職を実現している。川波学長は「全国から来た全学2255人の学生が共に学び、卒業生総数は2万人近い。同窓生のネットワークも充実している。エキサイティングな学生生活が送れると思う」と話している。

企業・行政の課題を 解決するPBLで 実社会を体験

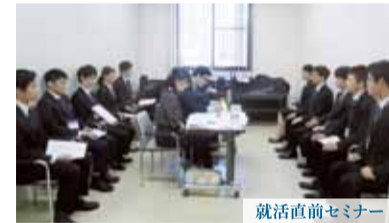
下関市立大学では、1年次からキャリア教育プログラムをカリキュラムに取り入れている。特徴的なのは2、3年次のインターンシップと3年次に行う企業、行政の協力で実施する問題解決型学習(PBL)。どちらも海外で行うケースもある。2年次のインターンシップでは、仕事を学び専門教育との連携を図ることに重きを置く。これで証券会社に興味を持ったのがきっかけで専門のゼミに入り、第1志望の証券会社への就職を実現した学生もいる。

3年次のインターンシップでは、実社会で社会人がどう対応しているのかを学び、

進路をより具体的にイメージする。PBLは、社会人の指導を受けながら課題をこなす。昨年、シンガポールで開かれた日本食見本市「Food Japan2016」では、市職員らに交じって学生がプロモーションに参加した。3日間で学生が大きく成長したことがはっきりと分かるという。

就職活動は、「一人ひとりの顔が見える」きめ細かい支援を行っている。キャリア支援班が全学生の情報を把握、特性を踏まえて個別に求人求職のマッチングを行い、時には保護者も交えて相談、指導を行っている。

キャリア委員会柳純(経済学部教授)委員長は「働く意義をしっかりと考え必要な能力を身に付けさせるキャリア教育と、個別指導の就職支援が両輪となって、高就職率や就職先からの高い評価をいただく支えとなっている」と話している。



就職直前セミナー
企業で働くOB・OGとの横顔面談の様子



Food Japan2016
下関市のブースでサポートした学生(シンガポール)

column

タイムリーな話題で 市民との接点を創出する 公開講座

地域共創センター アーカイブ部門の「鯨資料室」と「ふく資料室」は、下関市の水産業の象徴である鯨とフグに関する資料を集めている。特に鯨に関する資料等は、戦前の南氷洋捕鯨での海図や航海日誌など書籍類から捕鯨船の模型、工芸品まで4000点に及び、海外からも研究者が訪れている。

地域調査研究部門は、地域経済、歴史文化の調査研究を行っており歴史的遺産の活用法、世界経済に関する韓国の大学との共同研究などに取り組んでいる。地域教育活動部門は、市民公開講座、シンポジウム、出前講座を開催。7月5日開催の市民大学では「アニサキスなど食中毒を正しく理解する」をテーマとするなど、タイムリーで分かりやすい講座を心がけている。

濱田英嗣地域共創センター長は「存在感があり、市民に知的刺激を与えることのできる組織として一層の質的向上を図りたい。水産、造船など地元を支えた産業の史料が失われないよう保存にも力を入れたい」と話している。

下関市立大学 オープンキャンパス OPEN CAMPUS 2017



参加者全員に
オリジナルグッズプレゼント!!&
無料ランチ配布!
(8月のみ)

EVENT INFORMATION

下関市立大学を知るには体験するのがイチバン! 様々なイベントを準備しています。

模擬講義
本学の教員が高校生の皆さんに、日頃の授業を分かりやすく行います。

学内施設ツアー
在学生とおしゃべりしながら、学内を散策しましょう。

個別相談
個別ブースでは、入試や大学生活、就職など、あなたの色々な疑問にわかりやすくお答えします。

学生食堂
学生食堂で普段学生が食べている、人気メニューが味わえます。

無料ランチ

全体説明
●大学概要/本学の特色などを紹介します。
●入試説明/今年度入試の概況、来年度入試の概要を説明します。
●就職状況/就職状況やサポート体制を解説します。

市大生と語る
大学の授業やサークル活動、普段の生活スタイルのことなど、在学生の生の声が聞けます。

小論文対策講座
本学の小論文試験の傾向と対策について講義します。

8/5 Sat 10:00
8/6 Sun 15:00
〈受付9:30~〉

無料送迎バス運行

最寄駅(JR幡生駅・JR新下関駅東口)から送迎バスが出ます。※8月のみ

10/1 Sun プログラムの内容が8月とは少し異なります。詳細はHPをご覧ください。

公立大学法人
下関市立大学
Shimonoseki City University

〒751-8510 山口県下関市大学町二丁目1番1号
TEL 083-252-0288(代表)
TEL 083-254-8611(入試班直通)

下関市立大学 オープンキャンパス 検索

※駐車場に限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。